

目標

■研究活動（フェーズⅡ：発展）

- ① 専門競技移行後の運動技能の追跡調査と指導法を検証する。
- ② 女性参加者を増加させるスポーツ教室のあり方や新プログラムを提案・可能性を検討する。
- ③ 大学を中心としたスポーツ事業の実践と住民参画型スポーツ行政の機運醸成の検討を行う。
- ④ 若年者のスポーツコンディショニング法の開発と効果検証を行う。
- ⑤ 下肢筋力を効果的に鍛える自宅実践型プログラムを開発する。
- ⑥ 障がい者の生活状況に合わせたスポーツや運動が指導できる人材（ボランティア，コーディネータ，指導者）を多数養成する。

■ブランディング戦略【ブランディングの認知（満足）】

これまでの研究成果を通じて、周知してきたブランドイメージをさらに認知させるため、前年度に引き続き、シンポジウムや公開講座を開催し、研究成果を公表する。研究成果はHPやSNSで発信するだけでなく、天理市内の各所（商店街、スポーツ関連施設、公民館等）にポスターやタペストリーを貼付し、ブランドの認知を強化する。

実施計画

■研究活動

【地域スポーツ研究チーム】

- ① 本学スポーツクラブで運動技能習得のための指導を受けた子どもに対して、専門競技移行後の追跡調査を行い低年齢期に行っておくべき身体の使い方を明らかにする。
- ② 女性のスポーツ・運動実施率増加につながる行動要因を分析し指導プログラムを検討する。
- ③ 天理市スポーツ推進審議会によるスポーツ振興計画の指針作成、ワールドマスターズゲームズ2021KANSAIの啓蒙活動とボランティアとしての参加促進活動を行う。

【健康づくり研究チーム】

- ④ 養成した専門運動指導者とトップアスリートによる運動が苦手な児童・生徒に対するスポーツ教室を展開し、楽しむ機会からスポーツ参加率への影響を検討する。
- ⑤ 自宅にいる時間を利用して、下肢筋力を鍛える運動について活動筋の自覚的疲労感を基にしたプログラムが効果的か検討する。
- ⑥ 地域住民や学生を対象とした活動支援の担い手となる人材養成のための研修プログラムを開発し、人材循環の仕組みを構築する。

■ブランディング戦略

研究活動の成果を広く公表することで、本学のブランディング戦略が認知され、天理市地域に根ざした大学であることに満足を感じてもらえるように仕向ける。

■目標達成度の測定方法

高校教員や本学学生の保証人、卒業生に対して、これまで実施してきたブランディング戦略が有効に働いているか、アンケート調査から目標達成度を測定する。